

## 行事を楽しみましよう

## 季節とともに・自然とともに

すとうあさえ

(童話作家)

秋は私の一番好きな季節です。金木犀の香りや長い影、強風に揺れる木からたくさんのどんぐりがドドドドと落ちる様子や、枯れ葉のじゆうたんの上を歩く乾いた音や匂いとか……。子どもの頃の記憶は五感に刻まれているのだなとしみじみ思います。

私にとって秋の最大の楽しみは、氏神様の秋祭りでした。お神輿みこしは大人が担だしぎ、山車だしを子どもたちが引きます。私は友達と毎年参加しました。お目当ては最後に頂ける袋いっばいのお菓子と梨です。昭和30年代の子どもにとって、袋いっばいのお菓子は夢のようでした。

た(私だけ?)。毎日少しずつ大事に大事に食べたものでした。

そもそも秋祭りには、田の神様に今年の収穫に感謝し、来年の豊作をお願いするという意味があります。昔は不作の年には祭りの規模を縮小したりしたこともあったそうです。意外に神様に対してシビアだったのですね。

## 満月に収穫を感謝

秋の行事といえは、「お月見」です。最近はい皆さん忙しくて、あまり空を見上げないかもしれませんが、毎月満月はありますし、シユ

すとうあさえ

絵本『ざぼんじいさんのかきのき』(岩崎書店)、  
『はしれティーセルきかんしゃターア』(童心社)他。  
『子どもと楽しむ行事とあそびのえほん』(のら書店)で  
産経児童出版文化賞受賞。駒場幼稚園理事長。

ツとした三日月も、ニコちゃんマークの口みたいでかわいいです。

お月見は中国から伝わった風習で、旧暦8月15日の月を愛でる行事です。奈良・平安時代の貴族たちは月を愛でながら詩歌を詠んだり、宴を催したりしていましたが、庶民に広がり、ちょうど収穫の時期でもあったことから豊作を感謝する行事になりました。ススキや秋の草花、旬の野菜や果物、そして満月に見立てた「月見だんご」をお供えします。里芋が旬なので、「芋名月」ともいわれています。

面白いのは、お供物やよその畑の芋などを勝手に盗んでもいいという風習があることです。なんでも、「十五夜様が許す」と言っておださっているとか。さらに盗まれると縁起がいい、盗んだだんごを食べると健康でいられる、などともいわれています。昔、照明のなかった時代、満月の夜はとても明るかったことでしょう。その中で特別に許された一夜限

りの「盗み」。子どもや若者のガス抜きの意味もあったのかもしれない。けれども、近年、盗みはいけないこととされ、廃止になったところも多いそうです。時代とともに、行事の形も変わっていくのは自然のことですが、少し寂しい気がします。

そこで、絵本『だんごたべたい おつきさま』で、月見だんごを盗んでしまうお月さまのお話を書きました。お月さまはおいしいおだんごを食べて、とてもうれしそうです。



▲『だんごたべたいおつきさま』(はじめての行事えほんシリーズ) 文・すとうあさえ 絵・中谷靖彦 ほるぷ出版

## 日本生まれのお月見「十三夜」

今年(2021年)の十五夜は9月21日(火)。この本が出る頃には過ぎていくかもしれませんが、もう一つ、日本古来から行われている「十三夜」のお月見があります。旧暦9月13日の月を愛でる行事です。今年は10月18日(月)。間に合うようでしたら、ぜひ見上げてみてください。満月の2日前の月なので、形が少し細長いです。お供えは十五夜と同じですが、大豆や栗が旬なので「豆名月」「栗名月」とも呼ばれています。

私は昔から伝えられているさまざま行事の中でも、一番心惹かれるのがこの「十三夜」です。私たちのご先祖さまたちはなぜ、「十五夜」ではなく、少し欠けた、満月になりつつあるこの月を愛でていたのでしょうか。

興味深いですね。

人々は完全な○<sup>ま</sup>ではなく、「未完成の姿」に

美しさを感じていた……。私はそこに日本人の美意識、価値観を感じてしまうのです。

画一的ではないアンバランスな美しさ、これから満ち、育つものへの期待と優しいまなざし。やっぱり、私は十三夜が好きだなあと思います。

**幸せになるおまじない。冬至の運盛り。**

行事の要素のひとつに「おまじない」があります。十五夜の「盗み」もそうですが、他にも、端午の節句の日、菖蒲湯しょうぶに入ると一年間元気に暮らせる。湯舟に浮かべて柔らかくなった菖蒲を頭に巻くと、頭が良くなる。七夕の朝、里芋の葉に結んだ朝露(天の川のしずく)だそうです)を集めて墨をすり、字を書く。「字がうまくなる」「願いが叶う」。7月に7回、同じことをすると、いいことがある、などなど。

中でも私が好きなのは、「冬至」の「運盛り」

です。冬至は一年で一番昼の短い日。今年は12月22日（水）です。冬至の翌日から、少しずつ日が伸びていき、太陽の力が強まってきます。つまり、冬至は太陽復活の日。この日に「ん」の付くものを食べると一年間病気をしないそうです。例えば、ナンキン（かぼちゃ）、こんにやく、ぎんなん、ニンジンなど。さらにゆず湯に入ると血行が良くなり風邪をひかないとか。さらに、「ん」の付くものを盛ってお盆にのせると「運を呼ぶ」ともいわれています。

孫たちと「運盛り」をしたときのことです。それぞれに「ん」の付くものを持ってきてもらいました。するとなぜか、ぬいぐるみが盛られているので、「『ん』が付かないけど」と言うのと、「付くよ。ぼんちゃんだもん」。なるほど、付いてる。二つも！

小さい人って、なんて自由なんだろうと思いました。皆さんも、今年の冬至で、ぜひ「運

盛り」を楽しんでください。

日本は四季のある自然の豊かな国です。行事のことを知るにつれ、昔の人たちは、身近にある自然をうまく行事の中に取り込んでいたなと思います。

毎年巡ってくる季節の行事。その由来を知ると、楽しみ方もまた違ってきます。季節とともに、自然とともに、行事を楽しみましょう。



▲ミカン、ダイコン、キンカン、ナンキン、ニンジン、ぼんちゃん(ぬいぐるみ)、まるちゃん(柴犬)